

| | | |
|---------------------------|--------------------|--|
| えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬 | 会 報 第 198 号 | 2018年1月30日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠 |
|---------------------------|--------------------|--|

1. 年頭挨拶 (会長 原田賢治)

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春を穏やかに、お迎えのこととお喜び申し上げます。昨年皆様方には、会の推進に多大な御協力を戴きました。人の”力”と”和”の素晴らしさを感じています。有難うございました。昨年の活動を振り返ると、年間予定行事の推進と三つのイベントが華やかに執り行われました。

年間予定行事では、

イ、維持活動の推進・・・環境整備とエコアップ。

ロ、子ども達との協働作業では稲づくり体験・・・田植え・稲刈り・ハゼかけ・収穫祭

ハ、親子自然観察隊の学習では・・・毎月の学習テーマに基づいて講師の指導のもと、野鳥・昆虫・植物等の生態について学習して来た。自然環境学習である。

三つのイベントでは

イ、6月17日の日本テレビ系列（KRY 山口放送）の番組「24時間テレビ愛は地球を救う」“里山の保全ボランティア活動”とだいて活動の収録が行われました。当日は約120名以上が参加者し、4ヶ所に分かれて、エコアップ・環境整備・維持活動に汗を流しました。

ロ、6月～10月上旬に田原会員（山口大学農学部学生）が「ヨケジ設置の田圃の地温変化と水棲動物の調査」をされました。研究結果を期待しましょう。

ハ、11月17日宇部工業高校の生徒（生徒40名・教師3名・指導当会員4名）の校外講座生徒ボランティア活動は、午前中は二俣瀬ふれあいセンターにて、関根事務局長による出前講座、午後はビオトープにてエコアップ作業のボランティア野外活動。大変お疲れ様でした。

今後の環境学習の場として、多くの皆様に利用して頂くように努めましょう。

今後とも「里山ビオトープ二俣瀬」の推進に当たり、皆様方の更なるご指導、ご協力をお願いいたします。皆様方のご健勝を祈念し年頭のご挨拶といたします。

2. 活動報告 (事務局 記)

—1月20日（土）今年最初の活動日で、会員14名が参加し、ため池内の除草と観察路に仮置きされていた除去草の処理の作業を実施しました。

3. 今後の予定 (事務局 記)

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—2月4日（日）維持活動 エコアップ、修復作業

—2月17日（土）維持管理 修復作業

4. 来訪者の声

今回はありません。

5. 会員の声 「利便性と自然環境」 (原田満洲夫 記)

近くの厚東川の木田橋と二俣瀬橋の間の木々の伐採と浚渫工事が行われている。この冬到来したカモなどの渡り鳥も様子を伺っている。ヤゴ※で冬ごもりをしていた魚類も多くは追い出されたか餌となって消えていったと思う。小サギ・アオサギの結構な餌場になった。

梅雨時分の洪水の水の流れをスムーズになるよう川底の浚渫である。自然環境と人間の生活のどちらを採るか難しい問題である。

※ヤゴ 魚などの棲み家となる川岸の木の根っこや大きな石の窪み等

“浚渫が 戸惑い招く 渡り鳥”

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(25) コツバメ *Callophrys ferrea*

鱗翅目 シジミチョウ科

なじみのないチョウですが、春一番に現れる可愛い小さなシジミチョウです。成虫の出現期は4月～5月にかけて、おもに丘陵地、山地などの落葉低木林、溪谷沿い、樹林の林縁部の明るい陽だまりなどにみられます。主な食草はアセビですが、ヤマツツジ、ガマズミ、ボケ、ユキヤナギなどにも産卵します。幼虫は4月末～6月上旬まで見られ、夏～冬の間は蛹で過ごし、3月になると羽化が始まります。筆者は2月末に成虫を下関市豊浦町で見つけたこともあり早い記録とされました。成虫は溪谷に咲く「キブシ」の黄色い花に吸蜜に来ますのでこの花で待てばお目にかかれると思います。黄色い花と茶色のチョウのコントラストは絵になります。コツバメは木の葉や枝だけでなく地上に降りて枯れ葉や低い雑草などにも止まっていますので、案外見つけにくいチョウではありますが、地上に降りたチョウは近づくと飛び立ちますのでわかると思います。



「キブシ」の花で吸蜜するコツバメ



アセビで産卵するコツバメ

7. 会よりの連絡事項

200回会報が3月に記念号として編纂いたします。会員全員で投稿をお願いいたします。

8. 編集後記

田植えをしてから実りの時が遅れ予定通りに稲刈りが出来ず心配でしたが無事収穫。空模様をみて餅つきは室内で行われました。子供達は外の時より現場を離れる事なく集中して餅をもみ、パック詰めまで手際よく手伝ってくれ、美味しい餅をいただく事が出来ました。これまでの地元の方々の陰での助力に感謝しつつ。年末懇親会はいつも頂いたたくさんの猪肉を炭火を囲んで腹いっぱい箸をすすめながらビールや濁り酒等々盃も進みいつになくにぎやかな、和やかな、打ち解けた話も聞こえてくる年の瀬の一日でした。又、新年を迎え互いに体をいたわりつつ活動出来ますように。今年も宜しくお願いします。

(松本 フデ子 記)